

利尻山登山道にて拾われたヒメホオヒゲコウモリ

佐藤雅彦¹⁾・佐々木伸宏²⁾

¹⁾ 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

²⁾ 〒 097-8527 北海道稚内市末広 5 丁目 6 番 1 号 稚内地方合同庁舎 3 階 稚内自然保護官事務所

An Ikonnikov's Bat, *Myotis ikonnikovi*, Found on a Mountain Trail of Mt. Rishiri

Masahiko SATO¹⁾ and Nobuhiro SASAKI²⁾

¹⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

²⁾Wakkanai Ranger Office, Wakkanai district combination Government building 3F,
5-6-1 Suehiro, Wakkanai-shi, Hokkaido, 097-8527 Japan

Abstract. An Ikonnikov's bat, *Myotis ikonnikovi*, was found on a mountain trail of Mt. Rishiri at about 900 meters above sea level in September 2007. This is the highest altitude at which a bat has been found on Rishiri Island.

利尻島からはこれまで5種のコウモリの記録があるが、その多くが低標高の森林からの報告であった(町田・佐々木, 1987; 前田, 1993; 佐藤・小杉, 1994)。北海道内の850m以上の高標高におけるコウモリの記録は吉行・遠藤(1972), 阿部ほか(1982), 河合(2000), 出羽ほか(2005)などがあるが、これまで同島における最も標高が高い場所からのコウモリの記録は、標高450-500m付近におけるトドマツ・ダケカンバ林内の捕獲調査によって得られたヒメホオヒゲコウモリとコテングコウモリの2種のみであり、同時期の平野部における調査と比較して捕獲された個体数が少ないことから、高標高がそのことに影響している可能性が示唆されていた(前田・佐藤, 1995)。

2007年9月2日、午前8時10分から30分頃、筆者の一人である佐々木は利尻山の清掃登山中に1頭のコウモリが登山道の中央にうつ伏せの状態に死亡しているのを発見した。前腕や後肢がまだ伸ばせる状態にあることから死後それほど時間がたっており、周囲に登山者の足跡があったものの、ひどく

踏みつけられたということもなかったため回収し、利尻町立博物館にその後持ち込まれることとなった。発見場所は鴛泊コース7合目を過ぎ、3回目の曲がり角を越えたあたりの標高900-920m付近であり、これまでの同島からのコウモリの記録としては最も標高が高い場所からの記録となった。拾われたコウモリの計測値などは以下のとおりである。なお、計測については前田(1983)に従った。

標本番号: RTMM223

標本保管場所: 利尻町立博物館

性別: オス

年齢: 成獣

体重: 5.4 g

前腕長: 33.0 mm

後足長(爪なし): 7.0 mm

後足長(爪あり): 8.0 mm

下腿長: 14.5 mm

尾長: 32.0 mm

頭胴長: 72.0 mm

耳長：11.5 mm

耳珠長：7.0 mm

頭骨全長 (GL)：13.3 mm

頭骨基底全長 (CBL)：12.7 mm

上顎歯列長-切歯～臼歯 (UTL, i-m3)：6.2 mm

上顎歯列長-犬歯～臼歯 (UTL, c-m3)：5.2 mm

吻幅 (RW)：3.6 mm

頬骨弓幅 (ZW)：(8.1 mm)* 左頬骨欠損のため概算値

臼歯間幅 (UMW)：5.5 mm

乳様突起間幅 (MtdW)：(4.9 mm)* 左乳様突起欠損のため概算値

脳函幅 (BCW)：6.6 mm

脳函高 (BCH)：6.0 mm

吻長 (RL)：5.4 mm

脳函長 (BCL)：7.9 mm

脳函高 / 頭骨基底全長 (BCH/CBL)：0.472440945

臼歯間幅 / 頭骨基底全長 (UMW/CBL)：0.433070866

脳函高 / 脳函幅 (BCH/BCW)：0.909090909

吻長 / 脳函長 (RL/BCL)：0.683544304

死亡後について傷かどうかは不明であるが、本個体の左後肢の第1指と左胸に裂傷が見られた。また、尾膜の血管走行については不明瞭ながら「くの字」型が認められ、耳珠の形、下腿長、飛膜が後肢の指の付け根に付着すること、などの特徴から本個体はヒメホオヒゲコウモリ *Myotis ikonnikovi* と判断された。なお、頭骨の計測値からも本同定結果は正しいものと思われる。

拾われた場所はダケカンバやミヤマハンノキなどが登山道沿いに見られる場所だが、高標高と強風などのため樹高は低く、島内平野部に生息するヒメホオヒゲコウモリの一般的な生息環境（樹高が高く直径が太いトドマツなどを主体とした針広混交林）とは一見して異なっていた。このような場所が、餌となる昆虫の発生量、樹洞などのねぐらの確保、気温の面でコウモリの生活に適しているとは考えにく

く、今回拾われた個体は猛禽類などの捕食者や強風などにおおられて高標高まで偶然運ばれた個体である可能性が考えられた。しかし、高標高における夜間調査は困難であるため、高標高を利用するコウモリの生態についてはほとんど情報がなく、平野とは異なる生活戦略を持つ個体群の存在や、平野からの季節的な移動または一時的な餌資源の利用などで飛来した個体の可能性もある。これらの可能性の検討については今後の捕獲調査や標識調査の成果に期待したい。

最後に、高標高におけるコウモリの記録についてご教示いただき、原稿の校閲をいただいた前田喜四雄氏（奈良教育大学）に感謝申し上げます。

参考文献

- 阿部 永・前田喜四雄・河辺百樹, 1982. 十勝川源流部原生自然環境保全地域の哺乳類. 環境庁委託十勝川源流部原生自然環境保全地域調査報告書. 233-245.
- 出羽 寛・赤坂卓美・河合久仁子・近藤憲久・佐々木尚子・佐藤雅彦・平川浩文・福井 大, 2005. 十勝三股のコウモリ類. 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告, (27): 21-26.
- 河合久仁子, 2000. 糠平周辺におけるコウモリ相. ひがし大雪博物館研究報告, (22):1-4.
- 町田和彦・佐々木昌志, 1987. 北海道利尻島の翼手類. 埼玉県立自然史博物館研究報告, (5):1-6.
- 前田喜四雄, 1983. 日本産翼手目(コウモリ類)の分類検索表. 哺乳類科学, (46):11-20.
- 前田喜四雄, 1993. 利尻島で記録されたキタクビワコウモリ. 利尻研究, (12):11-13.
- 前田喜四雄・佐藤雅彦, 1995. 利尻島におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (15):45-48.
- 佐藤雅彦・小杉和樹, 1994. 利尻島で記録されたコテングコウモリ. 利尻研究, (13):1-2.
- 吉行瑞子・遠藤公男, 1972. 北海道日高山系の翼手類. 国立科博専報, (5):123-130.